

IV. 現代スポーツの動向

— 時事問題検討会のまとめ —

1. 「部活」問題を考える

— 若干の問題整理 —

藤田 和也

今日の「部活」問題を考えるためには、少なくとも次のような問題整理とアプローチが必要である。

1. 「部活」問題の現況

＜今日の「部活」に見られる否定的問題現象＞

- 「部活」における体罰・暴力と人権侵害
- 「部活」による人間関係の歪み
- 「部活」による子どもの生活・健康阻害

＜「部活」問題の社会化＞

- 現在、「部活」問題は、人権問題、健康問題、教育問題として社会問題化している。

2. 今日の「部活」問題の構造と核心

＜「部活」問題の構造＞

- 「部活」問題の構造的把握は今後の課題

＜「部活」問題の核心＞

- 勝利至上主義的「部活」観
- 非民主的「部活」運営
- 非科学的練習方法
- 指導者の力量と処遇の問題
- 「部活」の位置づけの問題

3. 「部活」問題へのアプローチ

＜スポーツ論的接近からの切り口＞

- 「部活」の実体についてのスポーツ文化論的分析
- スポーツ技術論や医科学論の立場からの「部活」の練習・指導の実態分析
- スポーツの組織過程論からの「部活」運営の実態分析

＜教育論的接近からの切り口＞

○子どもの発達にとっての「部活」の意義究明

○学校教育と「部活」との関係の理論的究明

4. 当面必要な作業

- ①「部活」の現状と問題の実態把握
- ②「部活」問題をめぐる諸論の動向把握
- ③教育政策・スポーツ政策における「部活」政策分析

2. 青少年の組織的スポーツ活動

— 1970年代後半～80年代前半の政策動向 —

高津 勝

1. はじめに

1970年代後半～80年代前半の学校運動クラブ・地域スポーツ活動に大きなインパクトを与えたのは、第一に、日体協、および参加競技団体の競技力向上への要求、第二に、「青少年の社会参加」をコミュニティ形成に運動させようとする青少年政策であった。それらの要求・政策は、財界の90年代戦略とより有機的な関連を深めつつ、臨教審第3次答申第4章「スポーツと教育」に反映・吸収されていく。その意味で、この時期の政策動向は、臨教審路線の前史的段階に位置づく。

2. 対外競技基準の緩和

学校クラブ活動を大きく規定する社会的な力として、日体協、および傘下競技団体の競技力向上への要求があり、臨教審前夜にも、その路線を具体的に貫徹していった。

1975年6月、日教組は、「国体の民主的改革をめざして」と題する改革案を発表、国体委員会の改組、隔年開催、教員種目の廃止、高校生参加の廃止、開会式の抜本的改善などを文部省、日体協